



〈サッカー部 女子〉



〈柔道部〉



〈バレーボール部 女子〉



〈水泳部〉

高校総体・各種大会

輝く瞬間



〈サッカー部 男子〉

鳥東高通信

第 166 号

平成 28 年 7 月

編集・発行

鳥取東高等学校PTA
鳥取県立鳥取東高等学校

印刷

日ノ丸印刷株式会社



本年度のPTA活動に向けて

PTA会長 稲村 潤一

五月のPTA総会において、今年度の会長を仰せつかりました。力不足ではありますが、今年一年間皆様の御協力をいただきながら、PTA活動が盛り上がるよう努めていきます。

入学式では、新たに着任された尾室校長先生より新入生と新入生保護者に向けて、「感謝即動」の言葉が贈られました。それは生徒たちに単に勉強やスポーツの知識や技術を教えるのではなく、生徒の心を動かし、自ら考え情熱を持って行動する、そんな東高生を教職員一丸となって育てていくという強い決意表明でもありました。

そのお話を聞きまして、保護者がPTA活動に参加する姿にも、子どもたちはなにがしか感じてくれるのではないかと思います。

今夏から選挙権年齢が十八歳に引き下げられるなど、本年に高校三年間が終われば、子どもたちは軽々と親の背中を乗り越え果立っていきます。その手前で親が本気でPTA活動に取り組む姿は、ある意味親として最後の抵抗なのかもしれません。最後まで我が子の「親」でいたいという気持ちの現れでもあると思います。この最後の親子の時間、「親」として悔いを残さないためにも、多くの方に是非PTA活動へご参加いただければと思います。(PTA活動はちょっと、という方は、東高祭でのPTA合唱の方へ是非ご参加を！)



一つかみの砂金

校長 尾室 真郷

県高校総体も終わり、多くの三年生が次なる進路へ向かって自分の可能性にチャレンジをする季節となりました。一、二年生は本気で学ぶ時期がやって来ます。そんなとき次の言葉がいつも心に浮かびます。「学問なんて覚えると同時に忘れていいものだ。ただ、全部忘れても勉強の訓練のそこ一つかみの砂金が残っている。これが尊いのだ。」とかつて太宰治が表現しています。「覚えると同時に忘れてよい。」とは思わないが、忘れようとしても忘れられない一つかみの砂金は、たくさんのおして広い学習の中で見つかるものです。たとえば深い穴を掘るためには広い入り口でないといいません。これは広く学ぶことにつながります。受験科目だけを勉強することは狭い入り口にするのと同じことです。狭い入り口では深い穴を掘るのとは不可能。一つかみの砂金は深い穴の底で見つかるものです。一つかみの砂金は簡単に発見できません。大学受験も不合格になってしまう。ならばどうするのか。本当の難関は受験ではなく人生の難関であるはず。成功した時でなく失敗した時に、順風満帆の時でなく失意の時に、喜んだ瞬間でなく、悔やみ悲しんだ時こそ、人生の難関に出会っています。その難関を切り抜けることで人は成長できるのです。挫折を知らない人が得てして傲慢で利己的な人になるのはそうした人の悲しみ、苦しみをくぐり抜けた経験がないからなのです。高校時代こそ、何度失敗してもどれほど悩んでも構いません。今こそそれを生かして一つかみの砂金を一緒に発見しましょう。

平成28年度 各種表彰者

PTA会長表彰

木村 聖治	副会長	(平成26・27年度)
網谷 憲治	文化広報部副部長	(平成26年度)
	文化広報部部長	(平成27年度)
谷川 充弘	研修部副部長	(平成27年度)
山根 孝子	健康・生活部部長	(平成27年度)
中原 里美	健康・生活部副部長	(平成27年度)
小林 真紀	人権教育部部長	(平成27年度)
根本 文子	人権教育部副部長	(平成27年度)
内田美恵子	文化広報部部長	(平成23年度)
	文化広報部副部長	(平成24・25年度)

県高P連会長表彰(表彰予定)

荒木 浩司	監 査	(平成25～27年度)
宇田川和人	会 長	(平成26・27年度)

平成28年度
鳥取東高校PTA常任評議員

役	職	氏 名	ク ラ ス
会 長		稲 村 潤 一	3 年 6 組
副 会 長		間 屋 口 秀 明	3 年 3 組
副 会 長		田 淵 聡	3 年 2 組
副 会 長		清 水 奈 緒 美	2 年 4 組
副 会 長		網 谷 憲 治	1 年 6 組
監 査		横 山 茂	3 年 5 組
監 査		近 藤 一 彦	3 年 5 組
監 査		溝 端 知 宏	1 年 7 組
健康・生活部長		平 井 美 和	3 年 2 組
健康・生活副部長		日 笠 理 恵	2 年 6 組
健康・生活副部長		影 井 美 津 江	1 年 4 組
研 修 部 長		西 川 直 美	2 年 4 組
研 修 副 部 長		植 田 栄 利 子	3 年 5 組
研 修 副 部 長		博 田 希 美 子	2 年 7 組
研 修 副 部 長		河 野 智 子	1 年 4 組
人 権 教 育 部 長		安 岡 裕 明	3 年 4 組
人 権 教 育 副 部 長		松 田 珠 美	3 年 2 組
人 権 教 育 副 部 長		中 澤 恵 津 子	2 年 1 組
人 権 教 育 副 部 長		佐 古 千 里	1 年 4 組
文 化 広 報 部 長		影 井 利 成	3 年 6 組
文 化 広 報 副 部 長		前 田 知 彦	2 年 3 組
文 化 広 報 副 部 長		井 嶋 清 美	1 年 7 組



1 年 団

前列右より	1-1	谷口ひとみ	(英語)
	1-2	山口優介	(国語)
	1-3	藤井真一	(数学)
	1-4	中野志保	(芸術)
後列右より	1-5	中野美紀	(国語)
	1-6	岡本尚也	(英語)
	1-7	木村憲之	(数学)
	学年長	矢部敦子	(数学)



2 年 団

前列右より	2-1	柿本琢也	(保健体育)
	2-2	小屋本るみ子	(国語)
	2-3	徳田千春	(国語)
	2-4	森希	(英語)
後列右より	2-5	澤田恭成	(英語)
	2-6	平尾加奈子	(数学)
	2-7	木下和成	(数学)
	学年長	田中典之	(理科)



3 年 団

前列右より	3-1	桃木貴子	(英語)
	3-2	美田宏子	(国語)
	3-3	山口陽子	(理科)
	3-4	中田一幸	(英語)
後列右より	3-5	磯尾朋子	(国語)
	3-6	松田浩	(数学)
	3-7	漆原祐一	(数学)
	学年長	安治誠一郎	(地歴公民)

平成28年度
PTA活動紹介

文化広報部

部長 影井 利成



文化広報部では、「鳥東高通信」を作成し、東高生の情報を保護者の皆さんに発信しています。高校生になると、事細かに学校の様子を親に話してくれなくなります(私の家だけでしょか)。学校の行事やクラブ活動の様子など、保護者の皆さんへ出来るだけ多くの情報が届けられるよう、文化広報部全員が知恵を絞り楽しい紙面作りを目指したいと思います。

PTAの役員と聞くと、腰が引ける方も多いと思います。文化広報部の良いところは、子ども達のいろいろな情報をいち早く、広く知る事ができる場所だと思えます。高校を卒業すると進学・就職と、子どもは親から少しずつ離れていきます。高校は、子どもが親のそばにいてくれる最後の時期とも言えますので、積極的に関わってゆこうではありませんか。今年の鳥東高通信は、何か一つこ

研修部

部長 西川 直美



自習室の開放には、研修部だけでなく、PTA各部の方々に協力いただいております。

自習室は、静かでもとても集中できる所です。冷暖房も備えてあります。生徒の皆さんには、この恵まれた環境を、是非活用していただきたい。部活や土セミで登校した日にお気軽に利用ください。実際、当番の時に読書も記帳もはかどりました。

さて、本年度のメイン事業ですが、「保護者のための進路セミナー」を三年生保護者対象として六月二十五日(土)に開催いたします。

健康・生活部

部長 平井 美和



健康・生活部は、子ども達が心身ともに健康で、楽しく充実した高校生活を送るために、保護者はどのようにサポートしたら良いのか、という視点で活動しています。①高校生マナーアップ運動に於いて、各PTA評議員さんのご協力のもと年二回の挨拶運動②学校医・保健部の先生・生徒保健委員

人権教育部

部長 安岡 裕明



『パラリンピックなんてなくなればいいのに...』。障害のある人もない人も、同じように世界のトップを目指している。障害者としてではなく、同じ一人の選手として、同

会と連携し、毎年テーマを絞って話し合う学校保健委員会③全保護者対象に年一回の研修会、を開催しています。

子どもが高校に進学すると「もう高校生だし」と子育ても一段落と安心していませんか?でも少しだけ角度を変えて、生まれて十六年しか経ってない?と考えると、まだまだ大人が寄り添い支援する場面はたくさんあるのでは、と感じます。子ども達を取り巻く環境が年々複雑化している中で、大人へと成長していくためには、親も成長し、理解していく必要があるのではないのでしょうか?

元気が一番!!親子で健康な生活を送れるための小さなお手伝い。先生方・担当の副会長さんのお力を借り、フレッシュなメンバーで有意義な活動をしていきたいと思っておりますので、一年間、ご協力よろしくお願いいたします。

じ大会の一つのカテゴリーとしてオリンピックに参加したい。今まで「サポーター」だった周囲が、今度は「自分たちと同じではない」「自分たちを超えられるはずがない」、あるいは「それは本当の(自分の)力じゃない」といって人の心を苦しめてしまう。

イチロー選手が先日、安打数の世界記録を打ち立てたときにも同様なことを語っている。「日米合わせた数字ということ、どうしたってケチがつくのは分かっていた」、そして、「子どもの頃から人に笑われてきたことを常に達成しているという自負がある」と...

自分ができることが人にできるわけではないし、人にできることが自分にできることも限らない。人それぞれ輝きが違う。自分と違った世界、知らない世界のこと、に少しでも目を向けることが、人の優しさにつながるのかなと思います。なかなか自分でもできないことなのかなと思いつつ、最近、少しずつこういうことを知る楽しさが感じられてきた気がします。



高校総体の結果

部 名	男女	種目及び選手名等	備 考
水 泳	男子	総合成績 優勝	
		400mメドレーリレー 3位	
		400mフリーリレー 3位	
		800mフリーリレー 2位	
		猪山 雅也(3-2) 200m個人メドレー2位、400m個人メドレー2位	中国大会へ
		村上 怜(3-2) 400m自由形5位、1500m自由形3位	
		木原 悠太(3-4) 100mバタフライ7位、200mバタフライ5位	
		青木 勇斗(3-7) 100m自由形8位	
		小林尚太郎(3-7) 100m平泳ぎ5位、200m平泳ぎ7位	
		山口 遼也(3-7) 100mバタフライ4位、200mバタフライ4位	
		西尾 太一(2-2) 200m自由形7位、100mバタフライ7位	
		柳澤 隼也(2-2) 100m平泳ぎ6位、200m平泳ぎ5位	
		岩崎 詢(2-6) 200m自由形8位、200mバタフライ6位	
		田中 隼斗(2-6) 50m自由形7位、100m自由形7位	
		西川 佳希(2-6) 100m平泳ぎ2位、200m平泳ぎ4位	
		日笠 鉄平(2-6) 100m背泳ぎ2位、200m背泳ぎ2位	
		垣田将太郎(2-7) 100m背泳ぎ8位、200m背泳ぎ6位	
		猪山 裕之(1-2) 200m個人メドレー4位、400m個人メドレー3位	
		水本 健琉(1-3) 1500m自由形5位、400m自由形7位	
		山本 真(1-4) 400m自由形2位、1500m自由形2位	
		安藤 弘樹(1-7) 200m個人メドレー3位、400m個人メドレー4位	
	女子	総合成績 2位	中国大会へ
		400mメドレーリレー 2位	
		400mフリーリレー 2位	
		吉村 真子(3-3) 100mバタフライ1位、400m個人メドレー4位	
		土肥 瑞穂(3-4) 200m個人メドレー5位、400m個人メドレー7位	
		吉田 百穂(3-4) 50m自由形4位、100m自由形3位	
		安本 彩花(2-1) 100m背泳ぎ7位、200m背泳ぎ5位	
		瀧山 美紗(2-3) 800m自由形5位、200m個人メドレー3位	
		久本 美空(1-1) 100m自由形5位、200m自由形4位	
		吉尾 真歩(1-2) 100m平泳ぎ3位、200m平泳ぎ3位	
		岸田 美怜(1-7) 50m自由形8位、100m自由形8位	
		徳田 響(1-7) 100m平泳ぎ4位、200m平泳ぎ4位	

高総文祭等の主な成績

部 名	大会名等	種目及び選手名等	成 績	備 考
邦 楽	第63回鳥取県高等学校総合音楽会	団 体	優 良 賞 (第3位)	近畿高総文祭出場
将 棋	第40回全国高等学校総合文化祭将棋部門鳥取県予選	稲村 隆英(3-6)	5 位	近畿高総文祭出場
演 劇	第69回 東部地区高校演劇発表会		優 秀 賞	
放 送	第63回NHK杯全国高校放送コンテスト鳥取県大会	団体 テレビドキュメント部門	優 秀 賞	全 国 大 会 へ
		個人 アナウンス部門 岸本 真央(3-6)	優 秀 賞	全 国 大 会 へ
		個人 アナウンス部門 徳田 菜央(2-4)	奨 励 賞	
		個人 朗読部門 北本 琉奈(2-3)	優 秀 賞	全 国 大 会 へ
		個人 朗読部門 垣屋 真歩(1-1)	奨 励 賞	



高校総体・各種大会
結果

平成28年度鳥取県高校総体が、5月～6月に開催されました。鳥東高生の健闘結果をご報告いたします。
また、文化部の活躍もどうぞご覧ください。

高校総体の結果

部 名	男女	種目及び選手名等	備 考
陸 上 競 技	男子	トラック得点 7位	
		800m 北脇 秀人(1-4) 3位	中国高校陸上出場
		1500m 北脇 秀人(1-4) 2位	
		3000m障害 古村 隆盛(2-7) 5位	
		八種競技 米井 潤風(2-7) 4位	
		総合得点 6位	
	女子	フィールド得点 3位	
		1500m 原田侑妃乃(2-6) 8位	中国高校陸上出場
		砲丸投 北山 莉沙(3-4) 3位	
		砲丸投 猪口あかり(2-5) 4位	
		砲丸投 古井 春菜(3-3) 7位	
		円盤投 北山 莉沙(3-4) 優勝	
		円盤投 猪口あかり(2-5) 4位	
		やり投 猪口 悠翔(2-2) 4位	
		やり投 猪口あかり(2-5) 5位	
バスケットボール	男子	準優勝 優秀選手 中村 友哉	
	女子	3位 優秀選手 山上 菜々	
バレーボール	男子	ベスト8	
	女子	準優勝	
サッカー	男子	第3位	
	女子	優 勝	中国総体出場
柔 道	男子	団体 3位	
		73kg級 渡辺 諒(3-2) 3位	
		81kg級 西尾 智樹(3-2) 2位	
	女子	団体 準優勝	
		48kg級 中江 衣月(3-3) 優勝	インターハイ出場
		57kg級 高橋 唯(3-3) 優勝	インターハイ出場
		78kg級 網谷有里子(1-6) 2位	
		78kg超級 河野 志織(1-4) 3位	
弓 道	男子	団体8位タイ(予選不通過)	
		1次予選通過者 4名 2次予選通過者 なし	
	女子	団体5位タイ(予選不通過)	
		1次予選通過者 1名 2次予選通過者なし	
バドミントン	男子	団体 2回戦敗退	
	女子	ダブルス 澤田・渡邊ペア 3回戦敗退(ベスト16)	



日中交流報告



中国河北師範大学附属中学を訪問しました。

平成9年から交流が始まった中国河北師範大学附属中学との日中交流の一環として、6月12日～16日、生徒5人教員3名で中国を訪問、附属中学と交流をしました。北京で万里の長城などを見学した後、附属中学のある石家庄市に移り、生徒たちはホームステイを2泊経験、15日に附属中学で300名ほどの生徒さんとの「交流会」に参加しました。

日中交流を通じて

2年4組 清水 拓実

僕は6月12日から16日まで日中交流で中国の河北師範大学附属中学の方々と交流をし、ホームステイをしました。昨年から日中交流が再開し、東高と河北師範大学附属中学との交流が始まりました。日中交流を通して、他国の文化や生活を互いに理解することが目的で、僕は昨年中国から来日された3人の生徒をホームステイに受け入れ、中国の文化と日本の文化の違いを実感しました。そして今年は僕たちが中国を訪問する年でした。僕は昨年受け入れた3人の生徒ともう一度会いたいという思いと、実際に自分の足で中国に行き、その場の雰囲気や生活を体感したいという思いを持ち日中交流に参加しました。

中国へ着いてみるとまず気候の違いを感じました。日本は湿度がありむし暑いのに対し、中国は湿度があまりなく気温が高くて過ごしやすい気候でした。食事面では中国の料理は唐辛子を使った料理が多く、またパクチャーを使っている物も多くありました。

日中交流で河北師範大学附属中学での交流式典に出席し、東高の生徒代表で東高の紹介と、漢詩を中国語で朗読しました。附属中学の方々は民族舞踊や合唱など素敵な物を披露してくださりとても感動しました。ホームステイ先の生徒の方も僕たちの発表は良かったとほめてくれました。学校の中では昨年受け入れた生徒にも再会でき、夜には晩ご飯と一緒に食べ、家族の話や日本の事などを話したりして、とても楽しい時間を過ごしました。

僕は今回の日中交流を通じて、日本と海外との文化の違いを理解し楽しむと共に、他の国の文化や歴史はとても素晴らしく尊敬する所ばかりだと思いました。人はとても優しく親切にしてくれたり、言葉は違っても心が通じれば理解し合えるのだと感じました。今回中国へ行き様々な経験を多くの事を吸収して、ひとまわり大きくなったのではないかなと思いました。



百聞不如一見

3年4組 梶谷 理咲

中国はカルチャーショックの連続でした。故宮や万里の長城、天壇公園は色彩の美しさや壮大さに中国の歴史を感じました。食事は毎回食べたことのないものばかりで、特にパクチャーは要注意でした。

私は今回の交流のために、山陰海岸の風景を油絵で描き、河北師範大学附属中学に贈りました。自分の絵が大陸を渡るというのは滅多にないことでとても光栄です。歓迎式典の後、生徒さんが追いかけてきてくれて、絵の感想と、「とても好き！」という言葉をかけてくれました。描き手としてこれ以上の喜びはないと思いました。

ホームステイでは初めは緊張していましたが、ちょうどピアノがあったのでお互いに曲を披露し合い、打ち解けることができ、音楽に言葉はいらないということを実感しました。また、ご両親もとても優しく、たくさん英語で会話をし、中国の文化や生活について教えてもらいました。

ここには書ききれないほど濃い5日間で、異なる文化に触れる楽しさを知り、正に「百聞は一見に如ず」のすばらしい体験をすることができました。



行事予定

◇7月 19日 凶 PTA懇談会（午後）（21日）
一学期終業式
夏季休業開始
夏期補講（29日）

◇8月 1日 凶 サテライン講座（5日）
夏期補講（全学年）（23日）
二期始業式

◇9月 1日 凶 東高祭（3日）
校内模試・実力テスト（9日）

◇10月 4日 凶 中間考査（7日）
土曜セミナー（三年のみ）
二年研修旅行（27日）
鳥取学（一年）
校内模試・実力テスト（28日）
土曜セミナー（全）

◇11月 26日 凶 土曜セミナー（全）
二期期末考査（12月1日）予定

◇12月 14日 凶 PTA懇談会（午後）（16日）
二期終業式
冬季休業開始
冬期補講

進路部から保護者の皆様へ

進路部長 竹島 一郎

2015年度進路状況の概要

まず昨年度の進路状況について、その概要をお伝えします。

進学については、鳥取大学の七十二名、島根大学二十三名をはじめとする国立大学一九九名（昨年度一六五名）、私立大学三四八名（同四〇七名、短大二十名（同三十九名）、専修学校等八十三名（同六十五名）という合格者数でした。（表1参照）

表1.

2016(平成28)年度入試合格者内訳					
			3年	既卒	計
卒業生数			317		
延合格者数			420	230	650
内 訳	大 学	国立	117	43	160
		公立	28	11	39
		私立	183	165	348
	短大	17	3	20	
	専修学校等	75	8	83	

また、主な私立大学の合格者については、同志社大六名、立命館大二十九名、関西大九名、関西学院大八名、国際基督教大一名、上智大一名、東京理科大学大一名という結果でした。

短期大学の合格者数は二十名と少なめでした。短期大学も一部の学科を除き入りやすくなってきていることから、慎重な学校選びが大切です。

専修学校・各種学校については、看護系への進学が大半ですが、その他、様々な実学系の学校にも進学しています。専修学校や各種学校を志望される場合、短期大学にもましてしっかりとした検討が必要です。その学校の内容が自分の考えているものと合致しているか、体験入学などを利用して複数の学校を見学し、比較検討した上で決めることが大切です。

就職の結果は、表2のとおりです。表中の公務員は、具体的には、警察官、消防士です。大変よく努力し、念願の職種への就職を果たしました。本年度も、授業への取り組みを大切にしながら、公務員用の問題集や適性検査の練習に早くから取りかかる必要があります。また、当然のことながら、就職を希望する場合は、民間企業でも公務員でも、学習面はもとより実社会で必要とされる知識やマナーを身につけるべく日頃から生活することが大切です。

2016年度の進路志望状況

表2. 就職状況

職 種	
公務員	4
郵 政	
金融・保険	
電力	
卸・小売	
製造	
建設	
その他	1

今年度の各学年の進路志望状況（四段階）は表3のとおりです。例年同様ほとんどの生徒が四年制大学を志望しており、その大半が国立大学を志望しています。

具体的な進路目標を持つことは、日々の学習や受験勉強を継続する上で心の支えとなります。一年生はこれから文系・理系・理数のコース選択が待っており、二年生では具体的な志望校のリストアップや入試科目・難易度の検討が必要で、三年生では大学入試センター試験や志望校の入試問題の研究を行っていく必要があります。

そうした意味でも、夏季休業期間中は進路を考える上で大変よい時期です。お子さんが本当にどのようなことに興味・関心があるのか、将来どのような職業に就きたいのかなど、親子で

じっくりと話をしてみてください。またこの期間に、大学・短大・専修学校などで体験入学やオープンキャンパスが実施されます。実際に参加して自分の目で確かめるのも、決意を固める意味でもよい契機になると思います。遠くの学校の場合は費用もかかって大変ですが、一度、ご家族で検討されてはいかがでしょうか。

表3. 進路志望状況（4月段階）

		3年	2年	1年	
進 学	在籍者数	274	282	288	
	国立	204	74.5%	218	77.6%
	公立	34	12.4%	33	11.7%
	私立	16	5.8%	5	1.8%
短 大	計	254	92.7%	256	90.8%
	公立	0	0.0%	2	0.7%
	私立	2	0.7%	2	0.7%
	計	2	0.7%	1	1.4%
就 職	専修学校	8	2.9%	11	3.9%
	民間就職	0	0.0%	2	0.7%
	公務員	9	3.3%	4	1.4%
	未定・その他	1	0.4%	7	2.5%

今年度進路部担当者

最後になりましたが、今年度、進路を担当する教職員をお知らせいたします。何かお尋ねになりたいことがありましたら、ご連絡をいただければと思います。

第 学 年 山口 優介（二年二組担任）
第 学 年 木村 憲之（二年七組担任）
第 学 年 澤田 恭成（二年四組担任）
第 学 年 木下 和成（二年七組担任）
第 学 年 中田 一幸（三年四組担任）
第 学 年 美田 宏子（三年二組担任）
進路部 専任

栄冠を勝ち取るために
自習室を積極的に活用しよう!





今回は、親子で書いていただきました。

部活動にしかない魅力

一六 那須 柚香

私は小学生の時からサッカーをしていて、中学校の三年間は鳥取県で一番強い女子のクラブチームに所属していた。鳥取東高校に入学すると決まってから、高校のサッカー部に入るかクラブチームで続けるかについて、たくさんの人に相談をした。その中で部活動を勧めてくださった人は皆、口を揃えてこう言った。

「部活動にしかない魅力がある。」

私は今回の県総体で、鮮明に覚えている瞬間がある。それは、緊張の中間迎えた一試合目、私が先制点を決めた時のことだ。一緒に試合に出ていた先輩方が、笑顔で私のところへ駆け寄り、祝福してくれた。あそこまで喜ばれるとは思っていなかった。少し驚いた。また試合後には、同級生の仲間が「感動した!」と言ってくれた。

私はその時、あの言葉の答えはこれだと思った。目標に向かって毎日練習に励み、試合ではみんなで一喜一憂する。これこそが、部活動にしか

ない魅力なのだろうと考えた。

今、私は自分の選択に後悔はしていないし、これからもするつもりはない。

二年後、部活動も含め学校生活を通して、心も身体も成長しているであろう自分の姿がとても楽しみだ。

高校生活を楽しくむ子をみて思うこと

一年保護者 那須 智子

憧れていた東高に入学し、早いもので三カ月。白い夏服と対照的に、部活で日焼けした真っ黒な顔が目立ってきました。

サッカー経験者のため、現在三年の兄を通して早くから女子サッカー部の先輩に誘ってもらったようです。クラブチームを続けるか、高校で入部するか、受験勉強以上にならな悩んでいましたが、最終的には自分で入部を決めました。親自身の東高時代を振り返り、部活動での良い思い出や学びがあったと感じていたので、ちょっとうれしく思いました。

優しく頼もしい先輩方と、応援歌を大声で歌う明るい同級生に囲まれ「試合が楽しみ」と言っていました。初めての県総体に出場し、緊張した場面もあったようです。中国大会一勝を目標に真剣に作戦を考えている姿には、成長を感じさせられました。家でのだらだらした姿とは違い、試合では一生懸命ボールを追いかけています。娘に断られるまでは、その姿を応援するのが家族の大きな楽しみです。

あつという間の三年間、壁に当たる事もあるでしょうが、部活も勉強も悔いのないように、今しかない高校生活をやり切ってくれたらと思っています。

見直す生活リズム

二一六 日笠 鉄平

勉強と部活の両立。中学校から先生に言われ続けている言葉だ。高校生になってまで言われる必要はないと思っていた。しかし、最近では明らかに部活に重きを置いている気がする。それに比重する様に学力も落ちてきている。

僕は水泳部に所属している。部活と言っても僕はクラブチームの方で練習している。クラブチームの練習はとてもハードだがその分やり甲斐も感じる。しかし、練習が終わった後に勉強をする気があまり起きない。練習は日曜日が休みだが日曜日も寝るかスマホばかりで勉強ができていない。

しかし、過去に僕はテストで納得する点を取った事がある。その時はある理由でスマホが手元にない時がテスト前に二週間程度続いた。その時はクラブチームの練習を朝練重視にして放課後に時間があるようにした。結果、勉強する時間が出来てテストの点に繋がったと思う。

クラブチームの練習時間は減らすことは難しいが、スマホの時間を減らす事は簡単なので、今一度僕は生活リズムを見直す必要があるはずだと思った。

母の教え

二年保護者 日笠 理恵

私の母は私の子育てに対し、いつもこう言ってきました。「二に体力、二に精神力、勉強は二の次で良い。とにかく身体と心の強い子に育てる」と。

(最近勉強はそうも言っていられませんが...)母の教えがきっかけで、私の子育てはどうしたら体力・精神力が身に付くのかを意識してきました。

まずは一歳から水泳を始めました。これはいまだに続いており、水泳は彼の生活の中心で今までの人生に大きく影響を与えてきました。小学生の頃はツアーですが富士山キャンプや関東・関西・九州と一人旅をさせました。高校生の今は雨でも冬でも基本送り迎えはしないと決めています。

一例を紹介しましたが、こんな感じで体力・精神力が付いたのかどうか今現在の私の中で答えは出ていません。答えは我が家から巣立っていった後の彼自身が一番よく分かるのかもしれない。しかし、今はまだ鍛えている最中。今後も様々な経験をしてもっと体力・精神力を身に付け、私にとつての子育ての最終目標「自分の口は自分で養う、飯の食える大人」になって欲しいと願っています。

感謝の気持ちで...

三一五 近藤 大樹

僕は一年生の時からずっとボート部に所属しています。あまり知られていないスポーツですが、とてもハードで、練習も厳しいです。しかしそのようなスポーツだからこそ、みんなで声を掛け合って励ましあいます。

今年の県高校総体では一回も勝てず、残すは国体のみとなりました。国体県予選を勝ち上がりシングルスカルで中国ブロックに出場することが決まりました。勝てたのは、日々の練習を見てくださる永島先生、応援してくれるチームメイト、先生方、そして何より、遠い会場でレースがあっても応援しに來たり、夜遅くなつて

も迎えに來てくれる親など、たくさんの方の支援があったからだと思っています。本当に感謝しています。国体では一回でも多く勝てるように頑張ります。

息子の背中

三年保護者 近藤 由美

「東高に行つて、ボート部に入る」と彼から進路の報告を受けて、早三年が経過します。

入学後、ボート部に入部した彼は、毎日、高校→湖山池→自宅の三十kmの距離を自転車で風を切つて走っていました。湖山池の練習では、ボート「沈!」により、眼鏡やTシャツ等を池の精に寄付したり、気合の入った試合でブイに衝突して「沈!」するハプニングもありましたが、楽しいこともたくさんあり、結果も残せた部活動だったようです。

親として、帰宅後、疲れ果ててベッドに倒れこむ彼を見て、文武両道でできるのかと心配で、送迎したい衝動に駆られた時期もありましたが、自助の精神を損なうことになるだろうと我慢し、毎朝、肉たつぷりの弁当を持たせ、「行つてらっしゃい」と送り出しました。負けず嫌いな彼は、親の見えないところで、自分なりに工夫して何とか部活と勉強の両立を図っていたようです。

高校生活も残り一年を切り、新たな目標に向けて、さらなる努力が必要な時期です。肉たつぷりの弁当と「行つてらっしゃい」の言葉で、卒業の日まで送り出してあげようと思います。